

令和5年度 第2回 川口市農政審議会 議事概要

1 開催日時 令和5年11月8日(水) 午前10時00分～11時15分

2 開催場所 川口緑化センター3階 会議室2・3

3 出席者 委員：10人(敬称略)
飯村 靖史(会長)
益田 みなみ
桐山 洋一郎
松井 幸助
坂口 清貴
椎橋 美孝
山岡 孝
中山 栄次
石塚 直幸
長嶋 聡

関係者：2人
公益財団法人川口緑化センター
専務理事 五島 淳一
事業課長 小川 順一郎

事務局：5人
経済部長 江原 季佳
農政課長 天池 忠澄
農政課農政係長 宮澤 大輔
農政課農業振興係長 山縣 由直
他職員2人

4 傍聴者 0人

5 議 事
議題1 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の改正について
議題2 川口農業ブランド制度第13期ブランド品となり得る農産物及び生産者の情報提供について
議題3 川口農業ブランド制度第14期ブランド品となり得る農産物の生産者へのヒアリングの実施について

- 6 議事録
- (1) 開会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 経済部長挨拶
 - (4) 議事録署名委員の選出
会長の指名により、中山栄次委員が選出される。

(5) 議 事	
議題 1	農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の改正について
	事務局が、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想について説明及び令和5年9月27日に告示・施行したことを報告
	報告のため、質疑なし。
議題 2	川口農業ブランド制度第 13 期ブランド品となり得る農産物及び生産者の情報提供について
	事務局から、会議資料に基づき説明
会長	この阜月盆栽は、大変素晴らしいものでした。傷がなくて根張りも良い鉢の中で長く栽培したものです。この生産者は、ハイレベルな盆栽展に飾れるだけの品物を生産している方だと思います。
委員	販売について、海外の方が多く買われているとのことですが、川口農業ブランドに推薦となれば、是非、市民の方にも知ってもらい購入できる機会を設けていただければと思います。
委員	生産者の方は、ご近所のため知っておりますが、昔から一生懸命良い阜月を作っている方です。昔は、川口も盆栽農家はたくさんいましたが、盆栽は非常に手間がかかって高価なもので、時代と共に作る人が徐々に減ってきました。盆栽や植木の技術者を後世に残していくことや技術の継承が非常に大事になっていると感じています。
委員	盆栽のような高価なものは、専門家ではない購入者は、アフターフォローが気になる場所ですが。
委員	販売業者も、そこは心得ていますので、連絡をすれば大丈夫です。
	その他、質疑なし。 議長は、議題2について諮ったところ、全員異議なく承認した。

議題3 川口農業ブランド制度第14期ブランド品となり得る農産物の生産者へのヒアリングの実施について	
事務局から、会議資料に基づき説明	
会長	皆さんの周りにも推薦できる方がいらっしゃると思いますので、ぜひお願いします。
委員	昨年、農業ブランドに推薦させて頂いた方と話しましたところ、ブランド認定を受けたことに非常に喜んでおりました。「これからクリスマスシーズンに向けて出荷するので、一生懸命頑張りますよ」と言っておりましたので、非常に良かったと思います。
会長	川口農業ブランド制度認定農産物の品目が増えてきたことは良いことですが、やはり生産量が少ないと厳しいこともあると思いますが。
委員	やはり周知も含めて、以前にもお話がありましたが、料理の仕方や実際に食する機会を設けるなどして行かないと、なかなか普及が難しいのではないかと心配しております。
委員	写真の説明だけでなく現物を見せることが大事だと思います。収穫の時期などの違いもありますが、年間を通じて多くのイベントがありますので、展示販売や調理をして試食できるようにお願いしたいと思います。
その他、質疑なし。 議長は、議題3について諮ったところ、全員異議なく承認した。	
その他	
会長	今、植木の販売は国内では頭打ちになっています。昔は庭に植木を植えている家が多くありましたが、今は敷地も狭く駐車場を作ります。そこで今後は、輸出に力を入れて行かなければとの思いがあります。そのために、県単位など一体となった体制をぜひ作っていただきたい思いがありますがいかがでしょうか。
委員	以前、川口緑化産業団体連合会の中で、輸出についてしっかりと議論した方が良いのではないかとの話がありました。輸出に向けて、連合会が一つの役割を果たせるのであればお手伝いしていきたいと思っておりますので、行政を含め農政審議会で議論いただきたい。
委員	オランダ国の国際園芸博覧会に出展させていただいた時、海外の園芸愛好家と話をする機会がありました。多くの方が川口の優良な植木等に非常に興味を持っていました。また、日本では珍しくありませんが、アメリカでは、柚子や柿が非常に好まれていて、輸出できるのではないかと思います。
委員	埼玉県では、農林部の農業ビジネス支援課が輸出の担当窓口になっておりますので、方向性をまとめていただいた上で、ご相談いただければ、お手伝いできると思います。

委員	農産物の販路を広げていくことは、次の世代のためにも、取組んでいかなければならないと思います。
委員	後継者の問題は、農家個人では、厳しいとおもいますので、受け皿として、企業形態のようにならないと後継者も育たないと感じています。また、国際園芸博覧会に参加した時に思ったことは、オランダでは、庭を毎年新しい花などで作り直していました。そういったやり方を川口の公園等で行い、安行の植木の伝統と技を全国にアピールしていくことが出来れば、国内でも売れると思いました。
会長	国内向け海外向けにしろ、やはり窓口は必要だと思います。後継者の話も含めて、体制が作られ、そこに魅力を感じていただければ、好循環にも繋がりますので、関係者で議論を進めていただければと思います。事務局から意見がありましたらお願いします。
事務局	野菜などの食べられるものにつきましては、輸出ばかりではなく国内に目を向けて、例えばフードフェスタのような展示会に出展して知名度を上げることもひとつの考えだと思います。すでに出展料の補助もごございますので、是非、ご活用いただいてご自身の生産物を PR していただければと思います。また、販売方法等につきましても、深谷市などの成功事例も身近にごございますので、そういった販売等もご協力していきたいと思っています。
会長	ありがとうございました。 今後を見据えると、ますます難しい時代になってきますので、引き続き県にも川口農業ブランドを含め、輸出関係もご協力をお願いします。